

仏心ある生活を!

さちあ

第 5 号

発行 黄檗宗青年僧の会「大阪の集い」の有志
教化布教紙研究会
霊龜山 九 島 禪 院
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
Tel 06-582-5772

国債ネズミ講と

仏教の教え

無欲な人は詐欺にかからない

この春、「国利民福の会」という新車のネズミ講が問題となり、国会で無限連鎖講防止法が改正されました。ニュース等でご存じな方も多いことと思います。入会希望者は三十万円の国債を買ひ、会が指定する先輩会員二人に十五万円分ずつ郵送、二人の子会員を勧誘すると、早くて約三週間後には五段階のピラミッドの頂点に立ち、計三百万円の国債を受け取れる仕組みになっていくそうです。従来のネズミ講防止法では、取り締まりの対象が、金銭に限定され、国債は対象外になっているのを目をつけた、悪どい脱法行為といえるでしょう。

十八件のネズミ講が摘発され、講演など千百九十八人が検挙されたということですが、まさに、「浜の真砂は尽きぬとも、世に盗賊の種はつきまじ」と言えるでしょう。悪質な詐欺師にかかると、たいていの人はだまされてしまいます。その点では被害者に同情すべきでしょうが、いつもこの種の報道に接した時には思うのですが、やはりだまされた人にも責任があるように思えてならないのです。欲が強すぎて詐欺にひっかかったのではないのでしょうか。

仏教では、つねに「少欲知足（しょうよくちそく）」の精神を教えています。欲望を無制限にふくらませてはいけません。足るを知る、これで充分だ、と満足できる精神をもって、と言っています。いつも、ガツガツと欲

ぐふそくく
求不得苦



望をひけらかすのは、畜生であり、餓鬼であると教えているのです。

人間なら、もっと人間らしいゆとりを大事にしたいものです。私たちは、もう一度身のまわりをみまわして、「これで十分だ」という満足感を見つける必要があります。

江戸時代の禅僧に盤珪（ばんけい）禅師がおられます。彼の語録に次のような話載っています。

盤珪禅師のもとに、在る時、鑄物師の信者が相談にやってきました。

「自分がつくった鍋や釜は十のうち八つも穴があいています。それを、自分は無キズだと言って売りつけています。心苦しくてなりません。やはり、わるい

